

令和４年度第１回大津町総合教育会議会議録

場所 大津町役場３階 会議室３０２ＡＢ

１ 開会及び閉会に関する事項

開 会 令和４年１１月２５日（金） 午前１０時
閉 会 令和４年１１月２５日（金） 午前１１時４５分

２ 出席した構成員の氏名

大津町長	金田 英樹
大津町教育委員会教育長	吉良 智恵美
大津町教育委員会教育長職務代理者	中尾 精一
大津町教育委員会委員	津留 武芳
大津町教育委員会委員	寺下 早苗
大津町教育委員会委員	大村 詠一

３ 構成員及び傍聴人を除く外、会議に出席した者の氏名

教育委員会教育部長	羽熊 幸治
健康福祉部長	坂本 光成
教育委員会教育部次長	百田 止水
教育委員会教育部学校教育課長兼教育支援センター長	高橋 和秀
教育委員会教育部生涯学習課長	荒牧 修二
健康福祉部子育て支援課長	大隈 寿美代
総務部総合政策課長	岩下 潤次
総務部総合政策課審議員	濱洲 大輔
教育委員会教育部学校教育課審議員兼指導主事	原 雄二
健康福祉部子育て支援課審議員兼大津幼稚園長	坂本 ユミ
総務部総合政策課長補佐兼総合政策係長	山田 和之
教育委員会教育部学校教育課施設係長	宇都宮 明子
教育委員会教育部学校教育課学務係長	桐原 智之

４ 傍聴人の有無

なし

５ 協議題を提出した者の氏名

①ＩＣＴ教育の現状について	【学校教育課】
②不登校児童生徒について	【学校教育課】
③中学校部活動の地域移行について	【学校教育課】
④国際交流と外国にルーツを持つ児童生徒について	【学校教育課】
⑤生涯学習センターについて	【生涯学習課】
⑥大津町公立保育等再編方針について	【子育て支援課】

⑦その他

6 質問及び討論

① について

質疑

働き方改革について、超過勤務の時間が短くなっていることは取り組みの成果を感じます。役場は遅くまで明かりがついているのを見かけることがあるので、役場職員の働き方改革の状況について聞かせていただきたい。

答弁

TSMC 関連で全庁的に業務がひっ迫しているところはあります。昨年度から業務量調査を行っており、どのくらいの業務があり、必要人員がどれくらいかを見定めています。また、効率化できる業務やなくせる業務の振り分けを行っているところです。住民 1000 人当たりの職員数は、熊本県内の平均が 10 人を超えているのに対し、大津町は 5 人ほどとかなり少なくなっています。職員数の増は予算の確保が必要になるので、議会にお示ししながら進めていきたいです。住民へのサービス向上につなげられるよう改善していきたいと考えています。

意見

教育委員会でも工事等も入ってきていると聞いているので、専門的な知識をお持ちの方を配置していただき、より効率的にしていだけるようお願いします。

意見・質疑

今後の展望というところで ICT 支援員の積極的活用とありますが、教員の指導力向上のためにもぜひお願いします。データでも指導力が向上していることはわかりますが、支援員がいることで教員も安心できると思うので継続的な配置をお願いします。

答弁

使い方がわからない時も連絡するとすぐに対応していただいております。効果があると考えています。先進的な活用についてもノウハウを持っていらっしゃるのので今後も積極的な活用を進めていきたいと思います。

意見

ICT は子どもたちに、より分かりやすいようにするため、コンピュータの使い方を知ってもらうために必要だと考えています。指導力の観点からは、もともと説明がわかりにくい先生が ICT を活用することで必ずわかりやすくなるとは限らないと思っています。ソフト等を利用することで先生の苦手な部分を補えるような取り組みを教育委員会と相談しながら考えていきたいと思います。

意見

私も ICT やタブレット等を整備したからすぐにわかりやすい授業になるとは限らないと思っています。今年は、いかに効率的に使えるかというところを各学校に検証していただきました。いい事例を各学校で共有しながら、来年度以降さらに充実させていきたいと思います。ただ、先生がついていなくても個別に繰り返しの学習ができるなどの部分に関しては、確実に今までより効率的になっていると思います。

質疑 町長の 101 の具体策の中で AI ドリルの導入について△になっていますが、今後導入についていかがお考えでしょうか。

答弁 現状のものについてはできることが限られており、より子どもたちの苦手が補え、先生たちの指導を補えるようなものを導入したいと思っています。スモールステップになるかもしれないが試験的に導入していきたいです。

② について

質疑 不登校の生徒が増えているのは心配なことではありますが、民間教育施設を利用している人については、選択して通っている人も多いと聞いています。その人たちが不登校扱いで定期が発行できない場合もあるようなので、将来のために選択して通っている人は登校とするなど制度の見直しなども必要かと思いますがいかがでしょうか。

答弁 学校に行きたくないが勉強したい人が行く施設、逆に体験等を重視した施設など様々です。そのため、民間施設に行っているから出席扱いというようにとひとまとめにはできないと考えています。今年度各施設を回って実態を把握しております。カリキュラムを組んでいる施設については、現在も出席扱いとなっており、定期券の補助も可能となっております。

意見・質疑 不登校児童生徒数急増の原因や背景で「無気力・不安」や「親子のかかわり方」があげられていましたが、家庭環境により学校がかかわりを持つことが難しい場合もあると聞いております。不登校児童生徒のうち関係機関からの支援を受けている児童生徒の割合は 100%となっていますが、相談の時間が合わないこともあるかと思います。菊池教育事務所の SSW の方に支援をしていただいているとのことでしたが、町内に配置することでより柔軟に対応ができ、一人も取り残さない取り組みにつながると思うのでぜひ検討をお願いします。

答弁 各学校が児童生徒にかかわっていくが、家庭事態に支援が必要な場合もあります。その際は家庭支援が必要なため菊池の SSW になりますが、菊池管内すべてを網羅しているので、何人もいらっしゃるが最短で 1 か月後の対応ということもあるのが現状です。

答弁 家庭支援が必要な場合については、福祉部局との連携も必要だと考えています。SSW については、どのくらいのお金がかかるのか、どこに配置するのかを案としていただいたうえで、よりよい体制を検討していきます。

意見 平成 20 年頃から比べると不登校児童生徒が倍になっており、今後はさらに増えることが懸念されます。平成 20 年頃に子どもたちの慢性疲労症候群が話題にな

り、学校にいけない子どもが増えたことがありました。その時に校内研修を行い、1日でも欠席したら電話、2日欠席したら家庭訪問、3日以上来なかったら学校内で情報共有を行うなど取り組みました。中でも効果的だったのは、体験学習です。興味がある施設に見学に行き、そこで友達と仲良くなることで、学校に来る意欲を持たせることができました。十数年前の話なので、今現在通用するかはわかりませんが、不登校問題は本腰を入れていかないと解決しないと思います。

意見

体験学習というのはとても大切なことだととらえています。施設訪問に行った際も、どの施設でも体験を行うと目が輝くという話を聞いております。学校の現状はというと、コロナ禍で体験や行事など学校の外に出る活動が様々な制限を受けています。リモートを活用するなど形を変えて学習内容の充実を図っていますが、いただいた意見は今後の学校のカリキュラムを検討する際に大切だと思っています。また、子どもたちが学校を楽しめること、将来生きていく力につながるとしています。

③ について
なし

④ について
質疑

姉妹校の締結状況について全部の学校で交流をという質問が議会であったと記憶しているがその時の様子をお聞かせください。

答弁

議会ですべての町立小中学校で交流できないかとの質問をいただきました。姉妹校は先立って小中学校3校が締結しており、現在はオンライン等での交流を行っています。コロナが3年ほど続いており、互いに行き来することはできていませんが、平成30年度に町内すべての小学生に公募を行い台湾に派遣した経緯もありますので、今後もオンライン等も活用しながら姉妹校を締結していない学校の児童生徒も交流ができるよう広げていきたいと思っています。

⑤ について
意見・質疑

私も生涯学習センターを利用していたが、舞台の広さや着替える場所など選択されない原因になることは感じていましたので、そういったところも含めて検討していただきたいです。また、他課と連携した講座で健康増進講座も非常に重要だと思っており、透析の方が年間16000人ほど日本で増えており、一人当たり500万円ほど医療費が上乗せされていくので、講座等をより活用することで町の医療費削減につながり、その分他のサービス提供にお金を回せることにもつながるという意味でもソフト面とハード面を合わせた検討をしていただきたいです。まちづくりの観点で、アクセスが悪いという話も聞くので循環バス等の検討もお願いします。

- 答弁 ご意見を参考にハード面だけでなくソフト面も進めていきます。
- 意見・質疑 コロナ禍で活動は難しい部分もあるかと思いますが、各地区に公民館があるので、町民の方が生涯にわたって楽しめるよう公民館活動の地域の部分を検討していただきたいです。修繕については大津町の生涯学習を行っていくという面では、今の子どもたちや中堅の方たちが生涯にわたって活用する施設になると思うので十分な検討をお願いします。
- 答弁 地域に出向くという形では、大津・錦野・陣内の分館利用を参考に他の地域にも出向けるように検討していきます。以前は公民館講座の利用は高齢者が多かったが、現在は子ども向けの講座も増やしておりますので、さらに充実させ皆さんの期待に応えていきたいと思います。
- 意見・質疑 生涯学習センターはオンラインの設備が整えばオンラインの交流発信の場、不登校児童生徒が集まれる場所、中学校の部活動の場などとしての利用も考えられるので、学校教育課とも連動して検討していただきたいです。
- 答弁 大津町の生涯学習を考えたときに、生きがいづくりや健康寿命、孤立化、コミュニティスクールも大きなテーマになってくると考えています。そうした中、ハード面ソフト面双方の検討が必要だと考えています。生涯学習センターはハードの1つにしかすぎないので、地域公民館の活用を進めるが、交通手段の問題もあるので、町長部局と教育部局の連携の重要性を改めて感じました。また、オンラインでの開催も行うなど、交通手段がない方にも参画してもらう取り組みを進めていきます。人材発掘という面では、ビジネスとしてされている方もいるので、民間との連携も行い多様な取り組みの検討を行っていきます。工事費の高騰が進んでいるため限られた財源の中で、町民の皆さんが使いやすい施設となるよう進めていきたいと思います。
- 質疑 歴史文化伝承館の利用促進を行っていると思いますが、町の歴史を案内できる人材の育成が課題になっています。まずは簡単なことを説明できる人を育成することの進捗状況はどのようになっていますか。また、そのような講座を開催することは考えられていますか。
- 答弁 募集も行っていますがなかなか若い人に興味を示していただけていないので、定年後の方に参加していただいています。また、説明資料も以前のものより内容を簡略化し、視覚的にわかるように映像を作成し、小学生への説明等に活用しています。わずかではありますが新しい人材も増え、修学旅行生へ上井手の案内を行っていただきました。まずは興味を持ってもらう取り組みをするため公民館講座にも取り入れていきたいと考えています。

⑥ について
なし

⑦ について

質疑

北小、護川小、南小、東小で児童が増えていかない現状があります。県でも地域を含めた5者連携を言われていますが、将来合併等の意見は出てきているのか、地域との連携をとるための懇談会的なものを考えられているのか教えてください。

答弁

現在施設面でも、大津中、南小の改修も検討しています。そういった中で、校区の再編も含めての検討が必要だと考えています。社会情勢の変化が急激に訪れていますので、今後の推移を注視しながら検討が必要だと感じています。

意見・質疑

町長が掲げられた101の政策のうちどれだけ達成されたのかお聞きしたい。また、大津中学校の講演会をされたと思うが、直接話を聞いた子どもたちやその保護者が町に関心を持ってもらうことにつながると思うので、ぜひ他の小中学校でも行っていただきたいです。

答弁

学校訪問については、依頼があれば日程を調整して伺いたいと思います。101の政策について、達成度合いはそれぞれあると思いますが、80項目くらいは何かしら進んでいる状況です。